

2011年 9月 14日

埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況

(2011.9.9 現在)

埼玉県で分離され衛生研究所で確認した腸管出血性大腸菌は、2011年9月9日現在で74株です。感染者の内訳を見ると下痢腹痛などの症状を呈した有症状者からの分離が56株、業態者検便や接触者検便での無症状者からの分離が18株でした。発症日で見たま月別の分離数では、1月から5月までは月当たり2~3株でしたが、6月に8株、7月に23株、8月に16株と分離株数が増加しています。高温多湿など腸管感染症の発生しやすい状況が今後も続くことが予想され、注意が必要です。分離されている血清型を表に示しました。O血清型で見ると例年どおりO157が最も多く51株、次いでO26が9株、O145が6株でした。

分離された腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型(2011.9.9 現在)

血清型	毒素型	検出数
O157:H7	VT1&2	28
O157:H7	VT2	15
O157:H -	VT1&2	8
O26:H11	VT1&2	2
O26:H11	VT1	7
O103:H2	VT1	4
O111:H -	VT1&2	1
O111:H11	VT1	1
O115:H10	VT1	1
O145:H -	VT2	6
O165:H -	VT1&2	1
合計		74

衛生研究所では、PFGE法を用いたDNA切断パターンによる型別を行っています。9月9日現在、血清型で最も多く分離されたO157:H7では43株中37株の型別が終了し、17型に分けられています。家族内感染での集積以外に、異なる保健所管内での分離株が同一パターンを示す例もあり、共通感染源の可能性も考えられました。

今後とも、原因究明調査等へのご協力をお願いします。